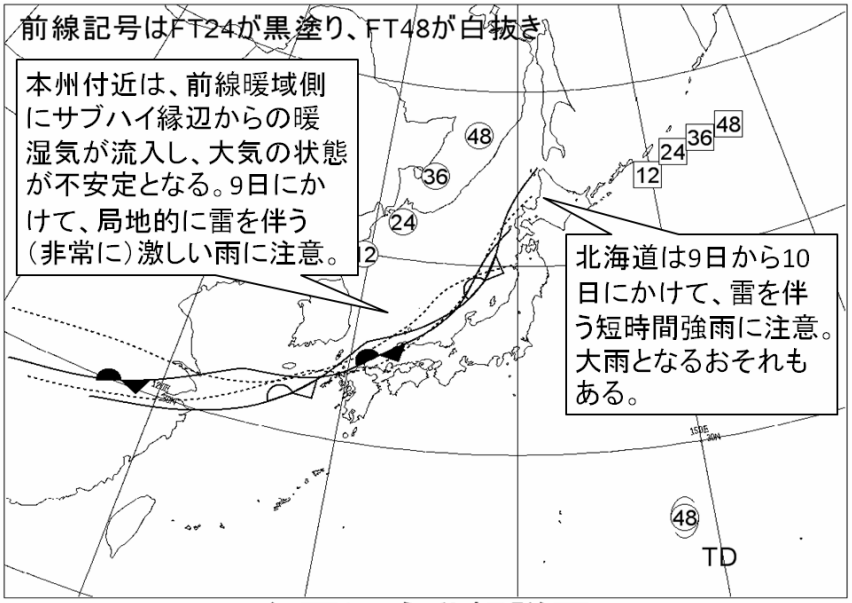
短期予報解説資料　２０１２年　９月　８日１５時４０分発表

気象庁 予報部

１．実況上の着目点

①朝鮮半島付近を 500hPa5760m 付近のｶｯﾄｵﾌﾛｰが東北東進。前面のバルジ状の雲域や後面の乾燥域が明瞭で、対応する低気圧は８日９時には朝鮮半島西岸。この南を回る 500hPa5820m 付近の強風帯に対応し東シナ海から日本海に前線がのび、前線付近の対馬海峡～日本海西部や暖域側の九州北部で対流雲が発達、発雷、ﾒｿｻｲｸﾛﾝを検知。40mm/h 前後を解析。

②西日本～東日本太平洋側にかけては、サブハイ縁辺流による暖湿気が流れ込み、局地的に対流雲が発達、雷を伴い 50mm/h 前後の非常に激しい雨の降った所がある。三重県ではﾒｿｻｲｸﾛﾝを検知。



主要じょう乱解説図

２．主要じょう乱の予想根拠と解説上の留意点

①8 日 9 時 850hPa 実況では、1 項①の低気圧は露点が 10℃程度、前線は気温 15℃や露点 12℃以上で暖域側等を目安とし風向も考慮すると識別しやすい。このあとﾄﾗﾌの深まりによっては、前線上の日本海に低気圧が発生する可能性はあるが、1 項①の低気圧と前線は別とするシナリオを採用。9 日にかけて低気圧は沿海州を北東進、一時的に 30KT[W]級を見込む。前線は日本の東の高気圧が強いため東進センスが小さく、9 日にかけて日本海を北上する。

②このため、本州付近は引き続き 9 日にかけて前線の暖域側にあたり、サブハイ縁辺の暖湿気が流れ込みやすい。大気の状態は不安定で、8 日は西～東日本の広い範囲で、9 日は西日本、北陸、東北日本海側を中心に局地的に対流雲が発達しやすい。すでに 1 項②のように現象が発生している所もあり、雷を伴う短時間強雨に注意、警戒。下層風向によっては、同じ所で降り続く可能性もあり、低い土地の浸水に加えて、土砂災害や河川の増水にも注意、警戒。

③9 日は、前線の接近により北海道でも暖湿気の流入が明瞭となり、10 日にかけて大気の状態が不安定となる。日本海側や下層南東風が吹きつける所を中心に、雷を伴う激しい雨が降り大雨となるおそれがある。

３．数値予報資料解釈上の留意点

総観場は最新 GSM を基本、降水は MSM も参考。

４．防災関連事項[量的予報と根拠]

①大雨ポテンシャル（18 時からの 24 時間：地点最大）：2 項②の短時間強雨により、西日本と北海道で 80～120 ﾐﾘ。　②波（明日まで）：高い所はない。

５．全般気象情報発表の有無

発表の予定はありません。

量的な予報については、今後の状況により変化する場合がありますので、注意報・警報や全般気象情報等に記述する数値を利用願います。